



JAXA筑波宇宙センターからのライブ授業を実施しました

1月17日、宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センターとオンラインで繋いだライブ授業がエネ研ホールで開催され、敦賀市立中央小学校6年生約80名が宇宙について学びました。

JAXAからのライブ授業は、去年の栗野南小学校に続き2回目で、児童達にJAXAとエネ研の共同研究について知ってもらうことにより、科学技術に対する興味や関心を高めてもらうために実施しました。授業では、双方の研究員がJAXAとエネ研が実施している宇宙空間で使われる電子部品や太陽電池に関する共同研究、エネ研のイオン加速器についてスライドや実物の試験用機器・装置を用いてわかりやすく説明しました。児童達はメモを取りながら熱心に研究員の話聞き、筑波宇宙センターで実際に使用されている機器や装置が会場の大きなスクリーンに映し出されると、その様子を興味深く見つめていました。

また、第2部では、一般財団法人リモート・センシング技術センター参加藤善一氏（福井工業大学客員教授）が「宇宙から地球を見る」と題した人工衛星の役割を紹介する授業を行いました。

児童達が敦賀市が宇宙と身近な場所であることを実感するとともに、宇宙への興味が膨らむような特別授業となりました。



敦賀にいる児童達に説明するJAXA研究員



エネ研会場の様子

高志中学校1年生がエネ研で研修を受けました

1月8日、福井県立高志中学校の1年生約90名が福井の産業や文化について学ぶ「高志学」の一環として、「嶺南エネルギー研修」を受講するためにエネ研を訪れました。

生徒達は3グループに分かれ、エネ研職員が講師を務める「エネ研の概要」、「太陽炉の説明とマグネシウムから水素を作る実験」、「科学機器の操作実習」の講義を交代で受けました。

「実験」では講師が行う実験を間近で見学したり、「実習」では実際に電子顕微鏡を操作するなど、生徒達はエネルギーや科学を楽しみながら体感した様子でした。



マグネシウムから水素を取り出す実験



エネ研の概要

「つるが国際シンポジウム2022」が開催されました

1月2日、3日の2日間にわたり、「つるが国際シンポジウム2022～原子力発電所の廃止措置から芽生えるビジネスと豊かな暮らしを楽しむまちづくり～」がエネ研ホールにて開催され、主催者である文部科学省から委託されたエネ研がこのシンポジウムの運営業務を行いました。今年は、新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで、国内外から講演者やパネリストを招き、地域住民等の参加者はエネ研会場への来場かオンライン配信で視聴していただく形式で開催し、2日間で約400名が参加しました。



IAEAテチアナ廃止措置専門官の講演
(1日目・第1部)

1日目は、原子力発電所の廃止措置と地域の関わりや福井県が嶺南Eコースト計画のもと進めている原子力リサイクルビジネスの展望等について、国内・県内の取組と海外事例が紹介されました。

2日目は、国内外の講演者に加え、10月に実施した勉強会参加者の地域住民がパネリストとして登壇したパネルディスカッションで、課題や今後への期待などが議論されました。



地域住民を交えたパネル
ディスカッション
(2日目・第5部)

本シンポジウムの詳細は、公式ホームページ
(<https://www.tis.mext.go.jp/>) からご覧いただけます。

「県内企業と原子力元請企業との情報交換会」を開催しました

1月22日、「県内企業と原子力元請企業との情報交換会」を福井商工会議所にて開催しました。この情報交換会は、「原子力関連業務従事者研修事業」の一環として、県内企業の原子力関連業務への新規参入や業務拡大を目的に毎年1回開催しており、今回で17回目となります。当日は、県内企業6社と原子力元請企業8社が参加しました。



全体会合の様子

まず、「全体会合」にて県内企業と原子力元請企業がそれぞれ自社の紹介を行った後、「個別面談」にて参加企業が個別に情報交換を行い原子力元請企業の詳細な業務内容を確認するとともに、県内企業が自社の製品や技術力をPRしました。



個別面談の様子

今後も情報交換会を開催し、県内企業の原子力関連業務への新規参入や業務拡大に繋がるよう支援を続けてまいります。

本誌を読まれての御感想、御意見を下記担当までお寄せください。

住所:〒914-0192 福井県敦賀市長谷64号52番地1

E-mail:kikakushien@werc.or.jp

TEL:0770-24-7273 FAX:0770-24-7275

公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター エネ研ニュース担当

